



Prepare for disaster

防災だより



No.1 2021.6.10 発行

宮城県村田高等学校 防災委員会

⑥ 地震, 津波, 台風, 大雨, 洪水, 暴風, 土砂災害, 火山等 日本は 何と自然災害が多い国なのか？

私たちは、できるだけ自然災害による被害を減らしながら、自然とともに生きていかなければならないのです。そのために



1 正しい知識・情報を持つ

❑ 自然災害備えるには、まず「自然災害」を知ることが大切です。正しい知識を身につけて、いざというときに落ち着いて、正しい行動ができるようにしましょう。

- 地震を知る
- 津波を知る
- 台風・大雨を知る
- 天気予報の確認

2 日頃の備え

❑ いざ、自然災害が発生したとき、それからはじめて行動してもできることは限られています。万が一に備えて、「日頃からの備え」がいざという時の役に立ちます。備えること、それには、「物」だけではなく、「知識」や「意識」を備えることが大切です。

- 命の安全を確保する
- 援助が来るまでの過ごし方



3 万が一の時は

❑ どんなに自然災害に備えていても、災害を防ごうとしても、残念なことです。自然災害は起きてしまいます。自然災害が起きたときに、どれだけ被害を少なくするか、「減災」という考え方が大切です。「日頃の備え」と「落ち着いた行動」が被害を最小限にします。

● まずは落ち着いて行動しよう

パニックになったら、思わぬ事故に巻き込まれる恐れもあります。まずは深呼吸して落ち着いてから「今やるべきこと」を冷静に一つずつやっとう。

● 避難は「まさか」ではなく「もしも」で

川の増水などで避難するべきか迷うことがあります。迷った時は「まさか」ではなく「もしも」で考えて、早め早めの避難をするようにしましょう。



● 正しい情報を デマに惑わされない

災害時は情報が不足して不安になっているためデマの情報が広がっていきます。落ち着いて、信頼できる情報源でない不安を煽るデマを自分から転送してしまうことが無いようにしましょう。

● 緊急電話以外は使わない！ 伝言ダイヤル171を

災害時に安否確認のために繰り返し電話をかけると、被災地で本当に救助を必要としている方のSOS電話を妨害することになります。安否確認は災害用伝言ダイヤル171等を使うようにしましょう。

● インターネット通信やSNSなどを使う

東日本大震災では、twitterやFacebookへのアクセスやインターネット回線を使った通話は、比較的正常にできました。これらを使って、自分の安否を多くの知り合いに知らせる方法もあります。

● 都市部での避難には車を使わない 地方では状況に応じて柔軟な判断を

災害時は、消防車や救急車など緊急車両が活動しやすいように道路を開けておく必要があります。道路上に放置された車は火災延焼の原因ともなります。

【日本気象協会HP「確かな情報と行動で防災力アップ」を参考に作成】





防災教育の目標（学校防災の重点）

- ① 自然災害等の危機に際して、自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成する。
- ② 支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める。



各年次の防災教育目標

- 1年次：身近な災害について理解し、防災への関心を高める。
- 2年次：地域の防災への取り組みを理解し、
地域にある高校生としての防災意識を高める。
- 3年次：自分だけでなく、他社の命を守るために必要な行動力・判断力を身につけ、
防災実践力を高める。



「緊急地震速報」＝ 震度5弱以上の強い揺れが予測される場合

⇒ 震度4以上が予測される地域に対して出される

【地震が起きた時、考えられる危険は？ 回避方法は？ 自分で考えて備えることが大切】

- ① 学校内では ② 家の中では ③ 通学路（徒歩）では ④ 電車やバスの中では



「恩人」について（内田より）



20km。還暦を迎える今、車を運転しての移動もおっくうである。沿岸部の高校生だった40数年前、部活動で12～2月の毎土曜日には20kmを走り、さらに30mダッシュを20本、腕立て・腹筋・背筋等の筋トレをしていたことなど夢幻のごとくである。20キロ走は学校から出発し、10km先の折り返し点（ゴルフ場）に向かうのだが、1年のときには必ずS先輩が一番先に到着して、部員全員が折り返したことを確認し、S先輩は再び走り出す。そして、部員をすべて追い越し、学校に戻っていた。12月だったのだろうか、ウチダは折り返し点を2kmほど過ぎたところから始まる長い長～いR45の直線で強い向かい風にあえいだいた時、後ろから追いついてきたS先輩は、わずかの時間であつたが、ウチダに伴走してくれた。「いいか、ここが頑張りどころなんだ。」「前を向いて走れ。俺の後ろについてこい！」という言葉とともに走り去っていった姿は忘れられない。もちろん、ついて行くことなどできるわけもなかったが、一番しんどい時に励ましてくれた先輩の言葉は生涯の宝となった。今でもつらい時に頑張れるのは、「ここが頑張りどころ」「前を向け」S先輩の言葉が忘れられないからだと思う。

S先輩は大学を卒業後、実家の水産加工会社に入り、社長となっていたが、東日本大震災で4つの加工工場をすべて失った。その後の経過は、よくは知らない。言うに尽くせぬ困難があつたとは察するが、「ここが頑張りどころ」「前を向くんだ」と自身を奮い立たせ、自社だけではなく、「地域の復興」へと歩みを進めたのだろう。5年前に会った時には、「元気にしているか」「こっちの学校には来ないのか」「戻って来いよ」と言われ、気持ちが揺らいだこともある。現在、被災した工場を再建し、水産加工品（塩辛、めかぶ等）を製造し、スーパー等に卸してはいるが、震災前にあった販路の多くを失っている。S先輩は、心から尊敬するウチダの恩人である。会社名を記すことをお許しいただきたい。『ハチヨウ』（八葉水産）である。スーパー等で、『ハチヨウ』の商標を見ることがあつたら、ぜひとも手に取ってほしい。味は、どの商品も確実にうまい。

さて、生徒諸君には、行動のよりどころとしている言葉はあるだろうが、指針となる言葉を行動に生かすことができれば、君たちを充実した生活へと導いてくれるだろう。また、災害時には苦境を支えてくれるに違いない。言葉を授けてくれた人が、生涯の恩人となるのである。

